学問基礎（森）12　2018-12-10

1. ねずみ算的なもの

バイバインの回は昔から最後換気扇の下に残った1つが分裂するシーンがとてもトラウマとして残っていました。

まんじゅうは増えて続けると、宇宙も埋め尽くすが、解決方法は一つしかないと思い込んでいても物の見方次第や、他の人の意見を聞けば、他の解決方法を見出せるかもしれないと考えた。とても意のある話だと思った。

おねえさんといっしょ！の組み合わせ暴発、動画では史子お姉さんが狂気的で笑ってしまいました

2、3年前にエボラ出血熱（国際感染病）が流行りましたがもし日本に感染者が来って移してしまったらと考えると日本は多くの間に感染してしまうのだと思いました。

剣道二段を持っていること言う。こういうやつをあと2つあるが考えたとき、全になかったのだ日本で1人の壁はやはり大きいと思いました。

私の知り合いの知り合いにメジャーリーグで活躍している大谷さんがいます！なのとした自慢です。

ドラえもんの影響力は大きいので、多くの人がバイバインで増える栗饅頭のことを気にしています。ネットで検索してみて下さい！

これはとてもいい視点です！皆さんの「選択」は創るものだというお話をしました。その際、色々な人の意見があると多くの選択が可能になりそうです。

ですね。ただ、ちょっと気をつけてください。それだけ計算が大変なものの結果を、どうしてあのビデオでは提示できたのでしょうか？！

非常に多くの組み合わせがあるような問題に対し、対処する方法（例えば人工知能）の研究が進んでいることを示すためのビデオなのです。その点を最後に指摘しておきたいと思います。

感染拡大を防ぐことは、極めて近い将来の重要な課題です。研究を進めている人々がいます。1点、強調したいのは、まさに、今、アフリカの一部地域では、エボラ出血熱が流行しています。見て見ぬふりができない重要な問題です。

選択と同様に、自分で創るのです。皆さんの世代は、大体、1学年100万人です。桜美林大学の1学年は、2000人程度です。つまり、皆さんの学年では、桜美林大学に在籍するのは500人に１人しかいません！

おおっ！しかし、逆に、大谷選手の知り合いの知り合いは、５００人に１人くらいいる、とも言えます。

2. フィードバック

正のフィードバックを実感した場面はやはり授業です。以前受けていた授業で学生の方々なかなか分向いてくれない方がいて周りの学生もやる気を落としている気がしました。またもてをたでればもって前の学生がやる気をみせなかったから教員の方もこっちを向いてくれなくなってしまったのだと思います。悪い方につながってしまった選択であると学べられました。

何か失敗やしてやりがすぎ気持ちがすごい下ってまた何かやらかしてしまうことが多い。それを正のフィードバックサイクルか。最初に悪な選択をし、そのよでまた悪の選択を繰り返してしまうとどんどん人として悪くなってしまうと思った。

勉強して成績が上がることによってモチベーションが上がり、さらに勉強するようになるということもフィードバックの例として挙げられると思った。

袋小路にはまり込むことがあり、身につまされるものがありました。

ありがちな話だと思います。せっかくの学費です。大事にしましょう。そのためには、教員の役割は大きいけれど、教員だけのせいにせず、自分たちに何ができるのかをよく考えてみましょう。

正のフィードバックの好例です。失敗すると失敗を重ねやすい。成功すると、成功が続きやすい。きっかけは小さなことだったりします。そのきっかけを選択できるか、が人生分けたりするわけです。

授業でお話できませんでしたが、負のフィードバックは逆で、結果が原因に返ってくることで元に戻ろうとします。「袋小路」はそのことかも。

3. その他

敗戦国側の罪に対しての話が数多く行われる一方で戦勝国側の戦争犯罪に対しては論される機会はあまり多くありません。それは正義ではないと私は考えます。

全くその通りですね。皆さんもアメリカに行ったときに、アメリカ人が原爆投下をどのように思っているかを聞いてみるといいと思います。きっと、びっくりするでしょう。ただ、ここでは、あまり話を広げずに、全体主義的な政治にならないような教訓について絞ってお話しています。

4. なぜ学ぶか

今日は少し頭を使う内容でしたが、考え方を知ることで考えられるようになる（あたり前のことですが）大切ですね。

テレビ番組で東工大の國分先生が、「哲学を学ぶのは頭にアプリを入れるようなもので、それを使って考えることができるようになる」と表現していました。学問にはそのような側面があります。つまり、学ぶことによって、単に知るだけではなく、「それを使って考えられるようになる」ということです。この授業の目指すところの一つです。

ドイツ人の「知らなかった」に対し収容されていた方の「いいや、知っていた」は色々思うところがあった。私たちは見たいものだけ見て、見たくないもの事実は知らないふりしていることが多いということ。

見たくない事実（怖い）を過去から学んでいきたい。

いい指摘です！そして、私が皆さんにお伝えしたいことの一つを書いてくれました。誰が好き好んで悲惨な歴史を学ぼうとするでしょうか。面白くなくても、私たちには知らなければならないことがある、という一例ではないでしょうか。

自分達も関わっているのに都合の良いものには目を向けて、都合の悪いものは見ないのはずんこくだなと思いました。

全くその通りです！しかし、もし、私たちが「面白くないから勉強しない」と考え、都合の悪いものから目をそらし続けたら、ナチスの時代のドイツ国民と同じではないでしょうか。

ユダヤ人の収容所の映像を見たとき、目をそむけてしまいました。でも実際にあった忘れてはいけないことなので最後まで映像を見きるという選択をしました。これも小さいことですが1つの選択だと思います。人々に権利は平等にあるので、このような過去は2度とくり返してはいけないので、負の方向への選択を防ぐことが大事だと思いました。

全くその通りです！「好きなことを勉強する」ことはどんどんしましょう。でも、知らなければならないことも、ぜひ、お互いにまなんでいきませんか。

ヒトラーの支じ率が89%と聞いた時とてもすごかった。国会の内部もうまくむしばんでいた、ナチスが独さい政ごを行うのに時間はあるというまだったのが怖しかない。

ナチスドイツの映像には非常に衝撃的だった。意図してか分からないが、ヒトラーがオフトイン、オフトアウトと同じ仕組みで国民の意識を巻きつけていたことに驚いた。

実際に調べてみましょう！ほんの数年で独裁政治に移行したことがわかります。ヒトラー自身が著作で書いているように、メディア戦略は意識的に展開しています。教訓として、政治家がそうすること、国民はそれにのりやすいことを学びましょう。

ナチスがドイツで共産党を批判した時、ユダヤ人を迫害して、その時自分に関係がないから、ナチスのやっていることに声を挙げなかった。そして、気が付いた時には、もう取り返しのつかない、史上最悪の悲劇をはんだ。この歴史から、自分の身に同じようなことが起きたらという想像力をもつことが必要だと思う。

ヒトラーの話では、自身が人を助けなかったことで、自分自身にも返ってくるというのは、実際にありうるというのは、印象的な内容でした。昔から、私も両親から、「自分が嫌がることを、人にしてはいけない」と言われました。理解はしていましたが今回ビデオを見て改めて知ることができました。

国が特定の人を攻撃しても、他の人が気づかないふりをし続けたら、それはナチスと同じようになっていく兆候です。私たちの日本で、そのようなことが無いか、アンテナを張って注意してみましょう！！そうしたことに気づくためにも学びは必要ではないでしょうか。

また、この授業や、他の授業との関係性を辿っていくと共通点を見い出すことに役に立つという思考を知っていれば、この授業だけでなく様々な講義の意味合いも深くなってくるなと思いました。

これもいい視点です！特にこの授業は、学問の入り口の授業です。他の授業との関連を積極的に考えてみてください！

最初のドイツの映像では、人はやはり長いものに巻かれやすくなってしまうのだと思った。でも、知らなかったで済まされることは、社会に出て責任のある大人には無いと思った。選挙に行かないという選択は、選択ではなく、選択の放棄だと思った。受精卵を操作することはタブーとされてきたようだけど、今回の講義を聞いていると通らなければならない道なのかなと感じてしまった。

カスタムチャイルドでしたっけ。限りなく望まれた生をもらえますよね。

「難しいから判断しない」は、政治に関していうと、つらい立場にある人を見捨てる行為になりがちです。

難しい問題でも、少しでも理解できるように学ばなければならないと、私は考えます。受精卵の遺伝子操作は、重い遺伝病に苦しむ人を解放するかもしれません。しかし、遺伝子単独で働くのではなく、組み合わせで働くと考えられます。すると、組み合わせ爆発のようなことが起こり、一つの遺伝子を変えた結果を全て調べつくすことは極めて困難になります。そうした場合に、遺伝子操作された子どもの人生に対して、果たして責任が負えるでしょうか。デザイナーベイビー（ですね。）が、本当に望まれた結果になる確証もなく、また、それが他に影響する可能性もあるとき、私たちはどうするでしょうか。

期末試験：　2019年1月21日(月)　　持込不可、学生証持参

第15講　：　2019年1月28日(月)